

◎子ども主体の授業作り

※ 授業の始めに、本時のめあてを書く。時間があればノートにふり返りを書く。

1. つかむ → めあて を書く
2. 見通す → 見 見通しを書く
3. 解決する → 自 自分の考えを書く
4. ねり上げる → 友 友達の考えを書く
 わ→分かりやすい方法は？
 か→簡単な方法は？
 い→いつでも使える方法は？
- まとめ を書く
5. ふり返る → ⑤ ふり返りを書く

◎発表の仕方(全教室に掲示)

(低・中学年)

- ・はい、～です。
- ・わたしは、～だと思います。(どうですか。)
- ・ちがう意見があります。
- ・〇〇さんの意見につけたしで、～です。
- ・ほかに、～もあります。

(高学年)

新しい意見

- ・わたしの考えは、～です。 ・わたしは、～だと思います。

反対・質問

- ・〇〇さんの意見とはちがって、～です。
- ・〇〇さんの意見に反対します。そのわけは、～だからです。
- ・〇〇さんの意見に質問します。～ですか。

つけたし・賛成

- ・〇〇さんの意見と似ていて、～です。
- ・〇〇さんの意見と同じで、～です。
- ・〇〇さんの意見につけたしで、～です。
- ・ほかに、～もあります。

◎算数の指導において

- ・低学年でタイルを使った指導を行う。
- ・文章題では、問題把握のために線や記号をつけたりする。学校全体としては、求めることに赤線を引くことにする。それ以外は、各学年でそろえて取り組む。
- ・原則として、式の数字に単位をつける。
 $3\text{こ} + 5\text{こ} = 8\text{こ}$ $12\text{人} - 5\text{人} = 7\text{人}$
1さらに2こずつりんごがのっています。7さらだとぜんぶでいくつになりますか。
 $2\text{こ} / \text{さら} \times 7\text{さら} = 14\text{こ}$

検討

- ・答えの書き方について(問いに対して文で答えを書く。)
例 「1人分は何まいになりますか。」(答え)1人分は、5まいになります。
- ・数量の関係を表現するのに、おはじきのような半具体物、ドットを用いた図、ドットを囲んだドットテープ図、ドットを省略したテープ図、タイル図、シェーマ図、線分図、数直線、シェーマ図(かけわり図)を積極的に使用する。
- ・計画的に児童のノートを評価する。

◎算数ノートの書き方について

- ・下敷きを敷く。
- ・日付、ページを書く。
- ・大きな文字で、丁寧に書く。
- ・文や計算は、つめすぎないで、一行や二行あけて書く。
- ・線は、ミニ定規で引く。(筆算・分数の時も)
- ・正解の時は、小さな丸をつける。
- ・間違ったら、×や二重線を書いて書き直す。消しゴムを使わない。
- ・1マスに書いていい数字は、2つまでにする。

◎教員の姿勢の共通確認事項

- ・1日の時間割・予定を教室前などに掲示する。
- ・黒板の周囲の掲示物は、必要最小限にする。(または、カーテン等で覆う。)
- ・机の並び方の乱れ、落し物、掲示物の剥がれなどに注意する。
- ・授業の始めと終わりのあいさつをきちんとさせる。
- ・児童を、～さん、さん付けで呼ぶようにする。
- ・名前を呼ばれたら、はいと返事するように指導する。